

大槻内藏九様

一、寛延元年戊辰八月五日、諸橋權進道成寺致傳授候に付、寶生大夫の送物之儀、以前格白銀十枚・晒布三疋・蹴筋一籠拜領爲仕度段、若年寄中の紙面を以相願候所、被達御聽、願之通と被仰出候段、青木新兵衛殿被申渡、權進儀會所の呼寄申渡候事。同九月權進・三藏共に御暇被下御國の罷歸候に付、寶生大夫等爲送物金子三十兩拜領被仰付、御目錄青木新兵衛被相渡、於會所權進の相渡、御請紙面若年寄衆の指出候事。

一、御能有之砌御雇役者誰々と相極、御能相濟候以後御通願御目見被仰付者共席之儀、組頭并御横目承合候事。

一、役者御樂屋座札打様之事、大夫は入口、其外は奥のなげしに張候事。

一、鏡之間之御番附は御右筆調候。御乞能有之時者重而調出す。右同斷。

一、御手役者藤本太左衛門せがれ三四郎儀、前髮取申度旨願之紙面指出候に付、致添番御用人中の相達候所、追而被申聞候は、前格など如何有之候哉与尋に付、御留守中此類

存當不申候に付、御在江戸之趣を以申達候旨相達候處、其後當三月江戸に被遊御座候内、角入・袖留申儀相願候節、河村覺左衛門・松原宇兵衛承届、其通と申渡候旨市正殿・単人殿の指出候紙面之扣見出候に付、其段紙面調、最前出候紙面と取替被請取候様に、村田半助の申達候所、最前之紙面者金澤の遣候間、重而出候紙面受取候。猶右之趣金澤に可申達旨に付、相渡置候事。

但、此趣當三月之首尾不存儀に付、廣尾御屋敷松原宇兵衛の尋に達候所、當三月相願候節は、御次に小紙に名札相調御近習頭の相達申候。若年寄衆の紙面指出候前、河嶋吉左衛門等の致内談候所、侍中とともせがれ角入・袖留等之儀は、頭承届迄に而事濟申候。御手役者として押立願申譯無之事と申聞候由之事。

一、梅澤庄八、御歸國以後、南都罷歸御暇奉願旨紙面指出、去々年同役共以奥書御家老衆席の指出候扣有之候。眞田佐次兵衛と致詮議、舊例ケ様には無之候。於御次頭中の口上に而申上、其刻達御聽候歟、又は内藏允承届、御用茂無之候間願之通可相返旨申渡趣に而、此趣に改替可然旨申談候

事。

一、御國より爲稽古罷越居申候町役者共、罷歸候砌御作事御門より通候事。追分口は難成候。但、過番此方(原文)に而指出候も調出し、則拙者共過番遣す。尤町奉行の茂送紙面遣候事。

一、寶生彌三郎・松井十左衛門御用之節、中の口往来仕管に候條可致承知旨、武田左衛門丑八月廿一日於御次申聞候事。

一、松林千左衛門弟源六郎儀、向後松井十丞格之通、御稽古之節可指出旨、延享二年十一月七日於御次武田左衛門交名調相渡候事。

一、春藤熊之助儀、依願江戸表に罷出、當分春藤源七方に罷在管之所、竹田權兵衛より相願、御屋敷之内に指置申度旨紙面指出候に付、則西尾単人殿の相達候所、被達御内聽、權兵衛願之通と被仰出候旨、単人殿被申渡候。御小屋之儀も、単人殿より武田判太夫に被申達候由被申聞候事。

一、松井十左衛門儀、役所相濟候以後罷出、明日寶生大夫召連候に付、相模守様の罷越申度旨申聞、承届遣し、翌日

大槻内藏允の相達置候事。

一、寛延元年辰の春、藤本太左衛門せがれ三四郎御國の罷越候儀間違之事に付、觀世左吉より申分之紙面指出。依之御近習頭前田兵部及内談候趣有之。右紙面、御手役者中由緒帳之袋之内に入置候事。

一四 本阿彌養子願之儀覺

一、私せがれ同苗内藏允、去々年病死仕候以後見合罷在候得共、親類之内相應成者無御座候に付、松平出雲守様御家來關口道育、私妻女と従弟續御座候に付、右道育二男關口富平今年十五歳罷成候。此者養子に仕、家業見習せ候様仕度奉願候。御年寄衆迄被仰上可被下候。以上。

丑四月十一日

本阿彌十郎右衛門 判

堀三郎左衛門殿

眞田佐次兵衛殿

寺西清左衛門殿

別紙半切に

本阿彌十郎右衛門養子願書付指出候に付上之申候。以上。